

大学授業でのソーシャルメディア活用における役割の変化

Change of Role of Using Social Media in the Lecture in Higher Education

村上 正行^{*1}

Masayuki MURAKAMI^{*1}

^{*1} 京都外国語大学マルチメディア教育研究センター

^{*1} Center for Multimedia Education, Kyoto University of Foreign Studies

Email: masayuki@murakami-lab.org

あらまし：本発表では、大学授業で twitter を活用してきた授業実践と調査から、学生のソーシャルメディア活用の変化、授業に対する満足度や評価の変遷などを分析し、授業中の学生のインタラク션을促進するためのソーシャルメディア活用のあり方について検討する。

キーワード：twitter, ソーシャルメディア, アクティブ・ラーニング, 学生気質

1. はじめに

近年、大学教育に対する関心や社会的な要求が非常に高まっていることにともない、大学教育においてさまざまな取り組みが実践されている。その中で特に注目されているのが、アクティブ・ラーニングであり、「一方向的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと」と定義されている⁽¹⁾。大学教員は、新たな授業形態に合わせて、自らの役割を柔軟に変化させ対応していくことが求められるようになってきていると言える。

筆者は、ソーシャルメディアの普及が急速に進んでいたことを背景として、2010 年より授業中に twitter を活用し、学生の意見を共有してインタラクティブな授業を行うように試みてきた⁽²⁾⁽³⁾。学生のソーシャルメディアの利用状況が変わってきたこともあり、6 年間実践を継続していく中で、学生の授業での行動も変化してきた。

本稿では、twitter を活用した授業実践の意義と改善点を明らかにすることを目的として、大学における twitter を活用した授業実践に関する 2010 年、2011 年、2015 年の調査とソーシャルメディア活用に関する調査結果を分析し、考察する。

2. twitter を活用した授業実践

twitter を活用している授業は、京都外国語大学で春学期に開講している「情報社会論」である。SNS や YouTube, Google や電子書籍などデジタル社会におけるさまざまなサービスについて紹介しながら、それらの特徴、利点、社会への影響などについて解説している。この授業中に twitter を活用して学生の意見、感想を書かせるという試みを行っている。

大学授業における ICT の活用は多数行われてきたが、twitter の活用の特徴として、学生の授業コミュニティの形成をあげていた⁽²⁾。ハッシュタグを用いることで授業に関するツイートを一覧できるし、リプライやリツイートなどを通じて学生同士の交流も可能であることから、一緒に授業を受けている、と

いった気持ちが生じ、授業内のコミュニティが形成されるのではないかと期待した。また、教員や他の学生をフォローすることで、授業外の学生のツイートを見ること、日常生活で感じた気づきなどを授業と関連づけることなどが可能になると考えていた。

3. twitter 活用に関する評価の変遷

3.1 質問紙調査の概要

受講生を対象に実施した質問紙調査の結果を行った。2010 年度、2011 年度は最終授業時に、2015 年度は 6 回目の授業時に実施した。回答者数は、2010 年 37 名、2011 年 33 名、2015 年 76 名であった。

3.2 日常的な twitter の利用状況

まず、「授業を受講する前に twitter を使っていたか」という質問については、2010 年 21.6% (8 名)、2011 年 45.5% (15 名)、2015 年 92.1% (70 名) という結果であり、社会における twitter の普及にともなって利用していることがわかる。

ソーシャルメディアの 1 日の利用時間については、1 時間未満が 34.2% (26 名)、1 時間～2 時間が 23.7% (18 名)、2 時間～3 時間が 22.4% (17 名)、3 時間以上が 19.7% (15 名) という結果であった。ソーシャルメディアの発信について 4 件法でたずねたところ、ほとんど発信しないが 17.1% (13 名)、あまり発信しないが 9.2% (7 名)、ときどき発信するが 46.1% (35 名)、よく発信するが 27.6% (21 名) であった。また、twitter で 1 日何ツイートするか、という問いについては、2 ツイート以下の学生が 63.2% (48 名) で大半を占め、5 ツイート以上する学生は 15.8% (12 名)、10 ツイート以上する学生は 7.9% (6 名) という結果であった。ツイートする理由は「楽しかったことなどを記憶しておくために投稿します」「一瞬思ったこととかなんかの感想とか」といったものがあげられ、よくツイートする学生は「今の心境とかどうでもいいことをよくつぶやく」ということであった。しかしながら、「友達の投稿をみるだけ」という学生が多く、投稿数も少ないことから、twitter

などのソーシャルメディアの利用時間は比較的長いものの、積極的に発信することではなく、情報を受信することを中心に使っていることが分かる。

特に、発信することについては「何か出来事があった時にしか発信しない」、「発信するときには面白いことをつぶやかなければ、と思うから」といった発信することに対するハードルを高く感じている意見が見られた。さらに、「ツイートしたいことは山ほどあるけど、あまり発信しすぎるとうざがられるかな、と思い、どうしても言いたいことだけ発信する」、「つぶやき過ぎたらうるさく感じる」というように空気を読んで行動しようとしている意見も見られた。

3.3 授業における twitter の利用状況

2015 年度の調査項目において「この授業用に twitter のアカウントを作成しましたか」を追加し、たずねた。その結果、作成した学生が 55.3%(42 名)、サブアカウントを利用している学生が 28.9%(22 名)となり、ほとんどの学生が授業用のアカウントを準備していたことがわかった。2010 年、2011 年の際には調査をしていなかったが、かなりの学生がメインアカウントを利用していたので、大きな変化があったように思われる。

授業用のアカウントを利用している理由として「メインのアカウントは鍵付き（アカウント）だから」「プライベートな内容は見られたくないから」という理由が多く見られた。現在、twitter を使っている学生は、鍵付きアカウントで利用している場合が多いことがわかる。あわせて「鍵をかけないと恥ずかしいから」「知らない関係ない人にフォローされたくないから」といったように、メインのアカウントでは知らない人に見てほしくない、フォローされたくないといった心情がみてとれる。また、「メインのアカウントはいろんな人が見てるから、よくわからないツイートはできないと思ったから」「友達に見られるので」といったように、授業でツイートした内容をフォロワーに見られることがよくない、と感じている学生も見られた。これも迷惑をかけたくないという、空気を読んで行動だと推測される。

次に「授業中に twitter でどのくらい発言しましたか」という質問に対しての回答を表 1 に示す。「わりと発言した」「よく発言した」の割合は 44.4%, 36.3%, 24.0%と徐々に減ってきている。2015 年に「あまり発言しなかった」が増えているのは、授業中に twitter にツイートすることを促したり、授業終了時に今日の感想をまとめてツイートする様に指示していることによる影響だと思われる。

発言した理由として、「気軽に質問できる」「授業の一体感」「発言した方が授業に参加した気持ちになれるので」といったものがあげられた。また、「(ツイートするのは) モニターにうつるため」「ツイートしても読みあげてくれない時があって悲しい。でも、楽しいです」というように、教員が授業中にツイー

トを紹介することによって動機づけが高まるような意見が見られた。また、発言内容として「意見はなるべくツイートするようにした」「おもしろいことがあったら」といった記述が見られた。

発言しない理由として、「どのようなことを書くかわからない」「授業の感想のみ書いていた」といったものが見られた。また「ツイートすることに抵抗はないが、モニターにあまりうつしだされたくない」「(ツイートしないのは) 授業内で紹介されるから」「いろんな人に見られるから」というように、授業中に紹介されること、他人に見られることが嫌だという意見も多く見られた。

表 1 授業中の twitter での発言

	2010 年	2011 年	2015 年
ほとんど発言しなかった	13.9% (5 名)	42.4% (14 名)	25.3% (19 名)
あまり発言しなかった	41.7% (15 名)	21.2% (7 名)	50.7% (38 名)
わりと発言した	25.0% (9 名)	33.3% (11 名)	24.0% (18 名)
よく発言した	19.4% (7 名)	3.0% (1 名)	0.0% (0 名)

4. 考察と今後の課題

3.2, 3.3 の結果から、学生はソーシャルメディアをかなり利用しているが、主として受信が中心であり、発信する場合でもできるだけ知っている人を対象にしていることが推測される。また、授業用アカウントを作成する割合が高いことや自由記述の内容から、同じ授業を受けている知らない人には、普段の発言内容を知られたくない、授業中の発言についてもあまり見てほしくない、という感情を持っている学生が多いことが分かる。つまり、当初、授業に twitter を取り入れた目的の 1 つである「学生の授業コミュニティの形成」は、現在そのまま twitter を利用するだけでは、かなり難しいことと言える。

今後の課題として、2 つあげる。1 つは情報を発信することによって新しいつながりが生まれ、新しい情報が獲得できる、といったソーシャルメディアの有効性を学生に伝える方法を検討することである。もう 1 つは、授業用アカウントなどの利用によっても授業コミュニティを形成するための授業デザインを検討し、実践していくことである。

参考文献

- (1) 溝上慎一:「アクティブ・ラーニングと教授学習パラダイムの転換」, 東信堂(2014)
- (2) 村上正行:「twitter を活用した授業デザインと実践」, 教育システム情報学会第 35 回全国大会講演論文集 pp127-128 (2010)
- (3) 村上正行:「twitter を活用した授業における受講生の発言の分析と課題」, 日本教育工学会第 27 回全国大会講演論文集 pp749-750 (2011)